

横浜市大 探査会・探検部OB会 <第5回> 日帰り旅行会 横浜海岸通りの隠れた4施設を訪ねる旅

概要報告書

～「へー、こんな施設があったのか！」が参加者共通の感想でした～

■日時: 2025年10月11日(土): 9:40～18:00頃

■参加者7名(敬称略、順不同):

名和裕美、水尾寛己、三浦茂、熊澤憲、伊藤明(化学科の名和OB同期生)、スティーブン(WEBデザイナー)、川尻哲夫(幹事)

■訪問地とその概要報告

(1) JICA横浜海外移住資料館

HP⇒[海外移住資料館](#)

無料

●最近、問題となったアフリカ4カ国の「日本ホームタウン」計画は、JICA側の勇み足政策で、一旦、中止となりましたが、逆に日本が明治から昭和にかけて海外に移住した歴史を知ることで、「**その大きな違いと日本人の逞しさ**」をあらためて認識できる興味深い見学施設でした。 ●ガイドの浅沼氏は展示施設のポイントを分かり易く解説されて、都度の質問にも明快にお答えいただいた。 とりわけ全員が興味を惹かれた展示物は「**日本の都道府県でどこが移住民を多く出したか?**」が一目で分かるコーナーでした。 1番は広島県、2番は熊本県、以下、沖縄、山口、愛媛と続いて、西日本に集中している点が特長。 その背景には、①東日本よりも人口過剰で貧困問題が深刻だったことにより、政府と自治体に移住・移民を推奨した(官約移民制度)。特に次男、三男の跡継ぎの困難さの解消策でもあった。

②海外との繋がりが歴史的に強い(近世から船による異国交流を行っていて抵抗感がない)等があった。

●最初は出稼ぎが多かったが、現地での低賃金から自作農への転換⇒定住へと進んで行き、**日本人の勤勉さと現地への溶込み(法律を守る、迷惑をかけない等)**から本格的に移民政策が拡大して、戦後の1973年に終結した。

●そして、現代。逆に、日本への移民政策の問題点はOB、現役もご存じでしょうから触れませんが、同行したスティーブン(インドネシア人)は日本社会に溶け込んで、15年近く勉強と就業を続けてきたが、最近の安易な労働力対策での入国審査の甘さと入国後の不十分な対応策に訝っていました。

彼は今後も随時、旅行会に参加しますので、彼との対話を通じて、「**日本人の良いところ、ダメなところ**」に気づかされることがあるでしょう。

●余談ですが、この施設の展示監修者は「**梅棹忠夫**」とのことです。OBも現役も是非、個人での見学をお勧めします。

(2) 海上保安庁横浜資料館

HP⇒[海上保安資料館横浜館 | Japan](#)

無料

●ここは衝撃が走る資料館でした。多くのOB・OGは「**あの事件**」を当時のNEWSで知った方もいるでしょうが、概要を整理しますと以下の通りです。

●1999年3月に日本のEEZ内に進入している不審船が、海保巡視船による警告を発しても尚逃走を続け、EEZ外(中国側)に逃げこんだ。さらなる警告を無視して、ついにはロケット砲による攻撃を開始して、日本の保安官3名が負傷した。

当時の国土交通省の副大臣が小泉純一郎首相の許可を得て、巡視船から正当防衛の反撃を加える命令を出して激しい銃撃戦となった結果、

横浜市立大学 探査会・探検部 OB 会



～青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の持ち方を言うのだ。
……年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いが来る～
(Samuel Ullman)

公式横幕

作成・25年10月18日 文責・川尻哲夫

展示方法がビジュアルに工夫されていて面白い



引き揚げられた北朝鮮の武器



その不審船は炎上、沈没した。●この資料館では、その後に引き揚げた不審船と武器の実物を展示しています。外国船が何らかの目的でEEZ⇒日本領海に侵入する事件が今でも多発しており、日本国としての対応を考えるための格好の施設見学となりました。

(※後にこの不審船は、北朝鮮からの薬物の密売目的であることが判明した)

●尚、詳しい資料は右のWikipediaからどうぞ。

⇒九州南西海域工作船事件 - Wikipedia

(3) 昼食(赤煉瓦倉庫のフードコートにて)

●大変混雑していましたが、7人はなんとか昼食を済ませて、次の見学地に向かいます。

ところが、この場所でメンバーの一人が“**大変なミス**”を犯してしまったことが後に判明しました…。

(4) 横浜税関資料展示室 HP⇒ <https://www.customs.go.jp/yokohama/> **無料**

●資料展示室の訪問報告の前に、日本の財務省の下部組織の税関が製作した公式Youtubeを見て下さい。

⇒ [税関密輸取締最前線 ～佐渡島沖不審船舶を追う～](#)

税関が製作した数々のYoutube動画はどれもよく出来ていて、現役の就職活動の参考にもなるはずです。●さて、不審船を追跡する任務は海保だけかと思い込んでいましたが、税関も 行うことをこの動画で初めて知りました。では、あの合成薬物フェンタニル(その前駆物質)が、なぜ名古屋税関をすり抜けて、米国に密輸されていたのか？

その報道は今年の6月でしたが、それまで名古屋税関は船での立入り検査にどう取組んでいたのか？の大きな疑問が起きるものです。

●ガイドの青木氏には答えづらい表情が見られたので、そこで中断。後でChatGPTに尋ねてみたら、いくつかの教科書的回答が出て来ましたが、私見を言えば「**輸出国が中国であることによる財務省や外務省の及び腰**」も理由の一つであると推定しています。

●さて、違法薬物、模造品、宝石・金貨等の膨大な密輸品を水際で止めている 現場の税関職員さんには頭が下がりますだけに、**海保と税関の職員さんの権限・予算の拡大と職場待遇の改善を新政権に望むものです。**

トピックス [【公務員】税関職員になるには？仕事内容やなる方法、年収](#)

(5) 横浜開港資料館

HP⇒ [横浜開港資料館](#)

●右の絵は、中学校の歴史教科書等を通じて見た方も多いでしょう。私もその一人でしたが、以前から抱いていたこの絵の疑問が2点があります。①下の2人待、しかも子連れでなぜここに立っているのか？



引き揚げられた船と保安庁による弾痕



押収された薬物



押収された模造品

【ペリー提督・横浜上陸図の2点の謎】

- ①下の二人は誰だ？
- ②右の樹木は今も現存するか？



開国当初は運上所と呼ばれていて、ほぼ今の位置にあった

ペリー提督を迎える公式会談の場にも拘わらず！(米国兵士の後ろには侍の群衆がひしめいて見物している)

- ①の疑問点をたまたま群馬県東善寺の村上泰賢住職に尋ねたところ、小栗上野介の研究者でもあるだけに、即答いただいた。「彼らは通弁(通訳)の立石得十郎と甥の立石斧次郎(後の長野桂次郎)との説が有力である」とのこと。1854年のペリー2度目の来日の横浜上陸に備えて、今の開港資料館付近に急遽、建てた応接所で会談を行う際に、彼らは通訳として立入りを許されて、日米和親条約の締結に至ったことになります。
- 斧次郎は当時、10歳位で1860年の遣米使節で小栗上野介76名に同行してアメリカに渡った。その時は17歳位。米国人から愛称トミーと名付けられて、トミーポルカが作曲される程の人気者となったそうです。

⇒[長野桂次郎 - WikiPedia](#) (注:その末裔の方が、22年の市大でのOB総会で村上氏の講演を聴きに來られて、懇親会にも参加されました)

- ②の樹木(クマグス)は今でも歴史の生き証人として、同じ場所、現在の横浜開港資料館の中庭に植わっています。(1866年の関内大火によって、木は全焼しても僅かに生き残った幹から新芽が吹き出し、英国領事館が大木に育て上げました。しかし、関東大震災で建物は全焼しましたが、再び右のように木は焼け焦げてでも決して死ぬことなく、今でも青々と茂った大木を見ることが出来ます)

英国領事館は全焼したが...



ペリー艦隊を見た生き証人



初参加の伊藤明さん

インドネシア出身
スティーブン

(6) 中華街(夕食)

- スティーブンが赤煉瓦倉庫での昼食時に財布を落としたことに気づいたのは横浜開港資料館の入場料を払おうとした時。あれから2時間半が経過しているだけに、はたしてあるかどうか？
- しかし、あった！床に落としていて、どなたかが事務局に届けてくれたそうです。「やっぱり日本だな～」と全員で乾杯！もう一つ。名和さんがテニスのシニア部門で春秋の連続優勝も乾杯のおまけ。こうして「横浜海岸日帰り旅行」是和やかな雰囲気です。

(7) 参加者二人の感想文 (※共に原文のまま)

インドネシア人の眼で見た4施設の感想

スティーブン

今回のOB会に参加できて、大変、嬉しく思います。テーマである「外国と日本」に強い関心を持っていたので、参加を決めました。

最初に訪れた「JICA海外移住資料館」では、明治時代から戦後までの移民の歴史やその困難、成果について詳しく学び、特に戦争花嫁の由来と歴史に新しい知識を得ました。次に、「海上保安庁の展示所」では、2001年に北朝鮮の工作船が乗り込んだ船の残骸や持ち物の展示を見て、ニュースで見聞きした事件の恐ろしさを改めて感じました。職員の方との質疑応答ではスパイ防止法の必要性についても理解が深まりました。

「横浜税関」では税の役割や没収品の展示を通じて、職員の方の鋭い目と対応の重要さに感銘を受けました。

最後の「横浜開港資料館」では、ペリー来航後の日本と外国人の共存の歴史を学び、今の移民政策の意義や課題について考えさせられました。

今回の4施設の見学を通じて、日本社会の安全と伝統を守るための外国人の入国管理の重要性を改めて痛感しました。

PS:赤煉瓦倉庫のフードコートでどこかで財布を落としてしまい、参加者の皆様にご心配をおかけしました。幸い日本社会の信頼と温かさのおかげで無事見つかり、本当に安心しました。もしこれが外国だったら諦めざるを得なかったと思い、日本社会の仕組みと日本人の民度に深く敬意を表します。

『海外移住』を介して、最近、「憂い」に感じる事、「異様」に思う事』

伊藤明

日本の場合では、第一段階では、領国開放を機会に始まった。明治初期の幕軍敗者の人びとが、国を離れて、新たな大地に夢を託した人々が移住した。「海外移住」は、多少、官制的では有ります。第二段階では、太平洋戦争後、荒れ果てた国の状況に見切りをつけ、新天地に夢を託した人々。多くが、南米の地を目指した。そして、成功者は、何代にも渡って移住地に根を生やしていった。第三段階は無くなり、「移住」は途絶えた。逆に、先進国となった日本は、「海外からの移住先」となり、多くの国から「出稼ぎ、移住」増加し、多くの産業の担い手となり欠かせない存在となっている。一部の政治家は、「これを規制すべき」とSNS等で標榜しているとか。何となく、排他的では！日本も右傾化するのでしょうか？

アメリカの場合では、500年前、欧州の地を迫害などで追われてアメリカ新天地に自由と開拓を目指したメイフラワー号の人々に始まり、この500年間世界各地から多くの移住が移り住み、アメリカをここまで大国に築き上げて来た人々から成り立っている。このアメリカを！まさに、多民族国家の最たる国。白人だけではない！多くの移住者が担って来た国だ！ここまで来て、あの大統領は叫ぶ！「***もう移住者は、不要！！大きな壁をつくれ！」

私の憂いは 最近、世界は何処もかしこ、戦争だらけ
独裁者ばかりが、闊歩する

困ったものだ！！？？
困ったものですね。

(8)まとめと予告

■今回の日帰り旅行会で見学した4施設は、OB・現役と神奈川県に関わる一般人の方にも関心を持っていただけて、**「政治と歴史の底に流れている4施設の共通項を見つけ出す旅」**でもありました。

例えば、JICA資料館を訪れたことで、過去に日本は移民を送り出す側にあり、現代では移民を迎える側にあることから、二人の参加者は異なる観点で感想を述べておられます。

■私が企画した狙いは、たとえ参加者の意見・感想の観点が異なっても、その施設の見学を通して、できるだけ歴史の客観的な事実を知ること、互いに意見交換をすることにありました。
＜第4回＞の2施設「領土・主権展示館」と「産業遺産情報センター」でも同じ狙いで施設を選択しました。

■私も含めて高齢者は、ともすれば価値観が固定してしまい、外に出ること、新たな経験や知識を得ることを億劫がることは否めません。それを解消する旅に出て、「頭脳の錆付き」を少しでも減らしていただきたいと願っています。

■さて、「＜第6回＞11月26日(水)の浦賀旅」もそんな狙いで企画中です。

①水尾OBによる三浦半島の自然観察 ②見学がとても困難な防衛大学のキャンパス訪問 ③ペリーの来航に関わる浦賀の知られざる秘話が詰まった施設訪問を予定していて、今回の続編でもあります。

では、これまで参加していないOB・OG、そして現役を優先しての受付を10月下旬から開始します！

1934年(昭和9年)に竣工した横浜税関の建物は「クイーンの塔」と呼ばれています

そうそう、ご家族と友人も参加OKです。但し、2台の車移動ですので、8人が定員です。(もし超えれば3台目の車を手配します) **案内書は10月26日頃に発信予定です。**



北挑戦の密輸船と判明した船室の内部

